

令和7年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第2学年（旧1学年）では確認テストや定期考査の解き直しを継続して行った結果、基礎・基本の定着に関して努力する姿勢が見られた。方程式、比例反比例では区の平均を上回り、関数の分野で「正答率を上げる必要がある」という課題をクリアした。
- ・授業内で考え方や解き方の方法を相談・確認し合うことで、考えたことを表現する生徒が増えているので継続したい。
- ・第3学年（旧2学年）では定期考査等で繰り返し出題するなどの効果で基礎的な問題の定着が少しずつ見られている。
- ・昨年の成果として、話し合いや学び合いの活動を通して、様々な考え・解法を知り、よりよい方法を導き出そうとする生徒が増えたことで、意欲・関心が高まっているので継続したい。

(2) 課題

- ・第1学年は、平均正答率が区平均を上回っているが、整数の性質や小数分数の計算はより正答率を上げる必要がある。
- ・第2学年は、平均正答率が区平均を下回っているが、方程式、関数等は改善が見られるので、図形、データの活用の分野で基礎の力を伸ばす必要がある。
- ・第3学年は、平均正答率が区平均を下回っている。特に数と式の分野において6点下回っているので、優先して改善する必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	正答率は、目標値を上回った。		
第2学年	正答率は、全体的に区の平均を下回ったが、平均値に近づいてきた。	正答率は、目標値を下回った。（第1学年時）	
第3学年	正答率は、全体的に区の平均を下回った。	正答率は、全体的に目標値・区の平均ともに下回った。（第2学年時）	正答率は、目標値を下回った。（第1学年時）

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率は目標値、大田区平均を上回った。	正答率は目標値、大田区平均を上回った。	

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

正答率は目標値、大田区平均を下回っており、課題である。	正答率は目標値、大田区平均を下回っており、課題である。	
-----------------------------	-----------------------------	--

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率は、大田区平均を下回っており、課題である。	正答率は、大田区平均を下回っており、課題である。	

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な計算に課題が見られる。文字式、方程式等の分野で力を入れ、基本的な計算練習をしていく必要がある。	データの活用の分野で課題が見られる。データの活用の分野で、基礎力を伸ばしながら、課題解決の問題や思考を必要とする問題で思考力を身に付けさせる。	考え方や解き方の方法を相談・確認し合うような協働的な学びを展開することで、答えだけでなくその答えになる過程を考えさせることができる。今後も解き方の共有をするための途中式を書くように取り組ませる。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
方程式、比例反比例は定着してきていると思われる。図形分野において正答率が低いので、基本的な問題を多く解かせていく必要がある。	どの分野においても課題が見られる。特に図形分野で課題解決の問題や思考を必要とする問題数を増やして思考力を身に付けさせる。	考え方や解き方の方法を相談・確認し合うことで生徒は自信をもち、安心して次のステップに取り組んでいるので、考えを書かせる機会を増やし、身の回りの問題や課題解決の問題を話し合いなどで関心をもたせながら、取り組ませる。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
昨年度同様、連立方程式において平均を大きく下回る値を示している。方程式の分野で問題を数多く解かせていく必要がある。	昨年度の課題であった1次関数、証明の分野において目標値を上回る数値が出ている。ただ、連立方程式の分野において課題が見られるので、改めて丁寧に扱い復習していく必要がある。	連立方程式分野に課題が見られる。身の回りの問題や課題解決の問題を話し合いなどで関心をもたせながら、取り組ませる。